

企画展

「オオタカは大きくない ～鳥たちの世界～」

奥村 みほ子

当館ではじめてとなる鳥類のみを扱った企画展「オオタカは大きくない ～鳥たちの世界～」がはじまりました。

展示の構成は、次のようにテーマ別のコーナーから成り立っています。

【鳥のからだ比べ】 オウサマペンギン、フクロウ、レンカク、ハチドリなど、様々な形態の鳥のはく製で多様な鳥たちの姿かたちを比較できます。

【鳥の骨格標本】 カルガモやアカショウビンなど、7種類の鳥の骨格標本とはく製を並べて展示し、鳥の繊細な骨格の構造と種ごとの違いを比較・観察できます。



アカショウビンののはく製と骨格標本

【オオタカは大きくない】

オオタカをはじめ、ミサゴやハヤブサなど埼玉県でみられる7種の猛禽類のはく製を展示しています。



猛禽類のコーナー



展示のようす

【埼玉県の鳥 シラコバト】 埼玉県のマスコット「コバトン」のモデルであるシラコバトをはじめ、ジュズカケバトやキジバトなどのハト類のはく製を集めました。

【身近な野鳥・珍しい野鳥】 ウグイスとメジロの比較をはじめ、珍しいナンヨウショウビンののはく製も展示しています。

【水ノ子島灯台の野鳥コレクション】 大分県にある灯台に衝突死した野鳥のたいへん貴重なコレクションの一部を展示しています。鳥は、一般的に「とり目」と言われ、夜は目が見えないように思われていますが、渡り鳥は夜にも長距離を移動することが知られています。灯台の照明に野鳥がぶつかって死ぬことは以前から知られていましたが、多くはそのまま放置されて資料として残りません。しかし、灯台の職員がそれらの死体を拾い集めてはく製にして保管したことで、渡り鳥の生態を研究する上で非常に重要なコレクションになりました。当館で収蔵しているこのコレクション約150体の中から33体を選んで展示しています。

このほかにも、メジロなど身近な野鳥の巣の展示、鳥の羽や鳥に関する漢字を扱ったクイズコーナー、生態写真コーナーもあります。

【開催期間】

平成25年1月19日（土）～6月9日（日）

（おくむら みほこ・学芸員）